

今村家文書 史料集

〔全二冊〕
中世～近世編
近代編

今村家文書研究会編

戦国期以来、京都近郊の伏見街道沿いで地域の有力者として代々続いてきた、今村家に伝えられた文書群の翻刻史料集。

総点数は約六七〇〇点、享祿四年（一五三二）から昭和二二年（一九四七）の、約四〇〇年間にわたる史料によって構成されている今村家文書のうち、

- ① 戦国期～近世前期の史料
- ② 今村家の由緒や経営に関する史料
- ③ 幕末の加茂川筋に関連する史料
- ④ 六条村や錢座跡村の「穢多」および「非人」関係史料
- ⑤ 幕末～明治初年の公用日誌を中心とした近代文書

について翻刻し、解題を付す。

上巻には中世～近世、下巻には近代の史料を掲載し、文書全体の目録および絵図類の高精細画像とトレース図三〇点を収録したCDを両巻（上下巻とも同内容CD）に収める。

【二〇一六年一月刊行予定】

▼B5判 上巻 中世～近世編：口絵二頁＋本文二七六頁

定価：本体八、八〇〇円（税別）

ISBN978-4-7842-1830-1

下巻 近代編：口絵二頁＋本文三五一頁

定価：本体九、二〇〇円（税別）

ISBN978-4-7842-1831-8

◎目次◎

上巻 中世～近世編

総説 今村家文書について

- 第一節 今村家文書の調査経緯
- 第二節 今村家文書の概要

第一章 戦国・近世前期の今村家

- 第一節 年月日の明記された文書・帳簿類
- 第二節 年未詳の文書・帳簿類

第二章 今村家の由緒と経営

- 第一節 今村家の由緒と泉涌寺・妙法院
- 第二節 今村家の経営
- 第三節 今村家住宅の建築構成と変遷過程
- 第四節 今村家の聞き取り調査

第三章 幕末の加茂川筋改造と柳原庄

- 第一節 安政三年の加茂川筋御浚い御普請
- 第二節 東台用水の普請と水車の設置
- 第三節 足を引つ張る加茂川筋普請入用

第四章 賤民集落と非人小屋

- 第一節 錢座跡村
- 第二節 錢座跡村出村
- 第三節 大西組（小稲荷）
- 第四節 七条裏等非人関係

◎付属CD（上下巻同内容）
今村家文書目録・絵図三〇点・同トレース図三〇点を収録

下巻 近代編

解題 近代の柳原庄と今村家

- 一 添年寄・中年寄としての今村忠右衛門
- 二 柳原庄の庄屋今村家
- 三 近代柳原庄の形成と柳原町

第一章 本町通と柳原庄の近代

第二章 今村家の人事

第三章 明治期の日記類

◎付属CD（上下巻同内容）
今村家文書目録・絵図三〇点・同トレース図三〇点を収録

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行：思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	今村家文書史料集 上巻 中世～近世編		本体8,800円(税別) ISBN978-4-7842-1830-1	
	冊	下巻 近代編		本体9,200円(税別) ISBN978-4-7842-1831-8	
お名前				tel	本書HPのQRコード
				e-mail	
ご住所	〒				
送本方法	代引（書籍代＋消費税＋送料400円を現品と引き替えにお支払い、代引手数料は弊社負担） ◎ 最寄りの書店・ネット書店でもお買い求め、お取り寄せできます ◎				

角倉一族とその時代

森洋久編

近世の角倉一族は大商人・事業家として広く知られている。本書は現代の角倉イメージにとらわれず、文化・技術の総体の中で近世の吉田・角倉一族の業績を俯瞰的に検討。多彩な分野の研究者のみならず、近世の技術の継承者たる職人・技術者も含む26名の論考を収録する。
▶A5判・628頁／本体8,800円(税別) ISBN978-4-7842-1797-7

※京都 高瀬川 角倉了以・素庵の遺産

石田孝喜著

高瀬川に限りない愛着と関心を持って30年余り、歴史に埋もれた史料をねばり強く探索し、高瀬川の流れとともに研究を続けてきた著者が、運河開削の歴史をたどり、舟入や橋の変遷など、多方面から歴史と文化のすがたを描く。図版多数。
▶A5判・250頁／本体2,200円(税別) ISBN4-7842-1253-1

水系都市京都 水インフラと都市拡張

小野芳朗編著

明治23年に竣工した琵琶湖疎水は、京都の都市構造さえ変えてしまう画期的な事業だった…。近代京都の都市史を水量・水質・水利権に着目して水インフラという視点から論じるとともに、同一水系に属する伏見が一度は独立市制を志しながら京都市へ合併される顛末を明らかにする。
▶A5判・310頁／本体5,400円(税別) ISBN978-4-7842-1815-8

北垣国道日記「塵海」

塵海研究会編

北垣国道(1836-1916)は、京都府知事に就任した明治14年(1881)から、北海道長官・拓殖務次官などを経て隠棲した明治34年(1901)までの活動や人々との交流を日記「塵海」に書き残した。明治地方官の実情を記し、京都のみならず中央政治史や地方自治・土木史・北海道史研究に寄与する資料。
▶A5判・652頁／本体9,800円(税別) ISBN978-4-7842-1499-0

※近代日本と地域振興 京都府の近代

高久額之介著

明治前期の京都官津間車道の開鑿・明治前期～中期にかけての琵琶湖疎水と鴨川運河の開鑿・明治初期～昭和の敗戦直後までの天橋立の保存とその振興・明治初期～昭和の敗戦直後にかけての童仙房村の開拓、という特定のテーマを取り上げ、地域振興の視点から考察する。
▶A5判・364頁／本体6,500円(税別) ISBN978-4-7842-1570-6

京都の歴史災害

吉越昭久・片平博文編

歴史上、京都を襲ったさまざまな災害をとりあげ、地理情報システム(GIS)などによる災害範囲や規模の復原、特徴や被害発生の実情の背景の分析、また人々の取り組みなどを論じる。地理学、歴史学、工学など多様な分野の研究者による、立命館大学G-COEプログラム「文化遺産の防災」プロジェクトの成果。
▶A5判・322頁／本体2,300円(税別) ISBN978-4-7842-1643-7

近代地方政治と水利土木

服部敬著

淀川・安威川・神崎川の水利構造の変遷と分析、沿岸住民の治水運動と中央・地方議会と政党の対応、近代化の意味と中央集権的近代国家の性格を地域史の視点から問う。【内容】近代国家の成立と水利慣行／水利組合の成立とその機能／淀川改修運動と地方政治の動向／日露戦後の農事改良政策と水利問題
▶A5判・400頁／本体6,600円(税別) ISBN4-7842-0873-9

老農・中井太一郎と農民たちの近代

大島佐知子著

農業近代化の過程で重要な役割を果たした「老農」といわれた農事改良者たちは近代化のなかで忘れられた存在である。除草機「太一車」の発明者として知られる中井太一郎について、ライフヒストリーを丹念にたどりながら、彼の技術・思想や、その全国巡回を支えた組織・団体などを明らかにする。
▶A5判・388頁／本体7,500円(税別) ISBN978-4-7842-1710-6

近世京都近郊の村と百姓

尾脇秀和著

佛敎大学研究叢書22

京都近郊の山城国乙訓郡石見上里村(現・京都市西京区大原野石見、上里)と、同村百姓にして公家家来でもあり、庄屋・医師・手習師匠としても活動した大島家を研究対象にとりあげる。建前と実態という「表裏」の運用により、社会の「隠微」を実現しようとする意識や調整に着目して、近世百姓の変容と実態を多面的に明らかにする。
▶A5判・294頁／本体4,800円(税別) ISBN978-4-7842-1731-1

京都冷泉町文書 [全6巻・別巻1]

京都冷泉町文書研究会編

16世紀後半から明治まで、切れ目なく残存している個別町の稀有な史料集。その全内容を編年によって収める。近世における都市史・社会構造史研究の基本史料。別巻として、解題・史料目録・参考史料を収録。
▶A5判・平均450頁／揃本体93,000円(税別) ※分売可

畿内の豪農経営と地域社会

渡辺尚志編

18世紀末以降、河内国丹南郡岡村(現藤井寺市)の庄屋を世襲した豪農・地方名望家が岡田家であり、近世・近代において同家が作成・授受した「岡田家文書」は、1万数千点にもおよぶ。近年整理が進められている岡田家文書を多角的に分析し、畿内における村落と豪農の特質を経済・社会構造の観点から解明する。
▶A5判・508頁／本体7,800円(税別) ISBN978-4-7842-1385-6

一九世紀の豪農・名望家と地域社会

福澤徹三著

19世紀の豪農・名望家と地域社会の関係を、上位権力(領主など)と都市と取り結ぶ関係にも留意しながら、中核的豪農と一般豪農の経営レベルの比較、金融活動の分析を中心に、畿内・信濃の地域間比較の視点も加え、その生業・営為を近世・近代を通じて明らかにする。
▶A5判・330頁／本体6,000円(税別) ISBN978-4-7842-1642-0

近代日本の都市社会政策とマイノリティ

杉本弘幸著

歴史都市の社会史

近代日本の社会政策・社会福祉の受益者である社会的マイノリティはどのように政策形成に関与しようとし、政策に包摂されていったのか。蔓延する貧困と格差への対応を模索し続けている現代社会に、政策の受益者の動向から再構成した社会政策史・社会福祉史の実証研究を提示する一書。
▶A5判・412頁／本体7,200円(税別) ISBN978-4-7842-1789-2

近世京都の都市と民衆

鎌田道隆著

思文閣史学叢書

著者が京都市史編さん所時代におこなった京都市内全域の旧家・会所・小社寺などの民間史料調査をもとに、戦国から幕末維新までの京都市論を展開。【内容】戦国期における市民的自治について／初期幕政における京都と江戸／町の成立と町規制／近世都市における都市開発／幕末京都の政治都市化 ほか
▶A5判・390頁／本体7,800円(税別) ISBN4-7842-1034-2

※「洛中洛外」の社会史

川嶋将生著

鴨川の景観変遷、都市としての京都を生み出した町人の信仰・遊楽や会所への関わり、被差別民の動向、京郊に展開した村落の諸相、さらに落書の系譜にみられる社会や政治に対する人々の認識など、「洛中洛外」の時代に取り組んだ成果。
▶A5判・348頁／本体6,500円(税別) ISBN4-7842-1003-2

※中世京都文化の周縁

川嶋将生著

思文閣史学叢書

「近世都市」へと変貌を遂げていく中世京都の姿を、洛中洛外図や祇園会の記録を通し、また声聞師・庭者など室町文化を支えた都市周縁の非人たちの動向と合わせて論じ、上層町衆と新興町人と世交代という、中世から近世への明らかな時代転換が見られる寛永文化に目を注ぐ。
▶A5判・430頁／本体7,800円(税別) ISBN4-7842-0717-1

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。 ※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。